

保健師だより



第 258 号
2024年 9 月
神奈川県建設連合
国民健康保険組合
藤田

昨年度国立がんセンターが公表した 39 歳以下のがんの診療状況を調べた報告書によると、がん患者数の 7 割を超える方が女性で、男女差が非常に大きいことが分かりました。これには若い世代で女性特有の子宮頸がんや乳がんが多いことが影響しています。今回はこの子宮頸がんについてお知らせします。

若い世代で子宮頸がんが増加

子宮頸がんの罹患率は 20 代後半から急増し始め、40 歳代で最も多くなります。

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、おもな原因はヒトパピローマウイルス (HPV) の感染です。性的接触のある女性であれば 50%以上が生涯で一度は感染するとされる一般的なウイルスです。まれに感染が持続し、がんへと進行します。

検診でがんになる前に発見できます

早期の子宮頸がんは自覚症状がありませんが、検診でがん細胞になる前段階の「前がん状態」で発見できれば、簡単な手術で根治も可能ながんです。

検診の方法は？

子宮頸がん検診は子宮頸部の細胞を軽くこすり取り、がん細胞がないかを調べます。検査にかかる時間は 1~2 分と短い時間で、ほとんど痛みもありません。

20 歳を過ぎたら定期的に検診を！

子宮頸がんは数年~十数年の「異形成」と呼ばれる前がん状態の期間を経てがん化するため、その前に見つけることが非常に重要です。定期的に検診を受けることで、この前がん状態で発見することができます。なお、月経中は正しい検診結果が得られないため、可能な限り月経期間の日程を避けて予約をしましょう。



神建連国保のがん検診は無料

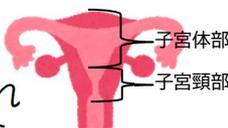
組合員と 20 歳以上のご家族は無料で子宮頸がん検診を受けることができます。(乳がん検診も 20 歳以上、胃がんと大腸がんは 40 歳以上の方が無料で受けられます) 必ず基本検査を受ける必要がありますが、基本検査と別日でがん検診を受けた場合も補助の対象です。
★今年度は基本検査受診時に婦人がん検診を受けていない方へ個別に通知を送付しています。



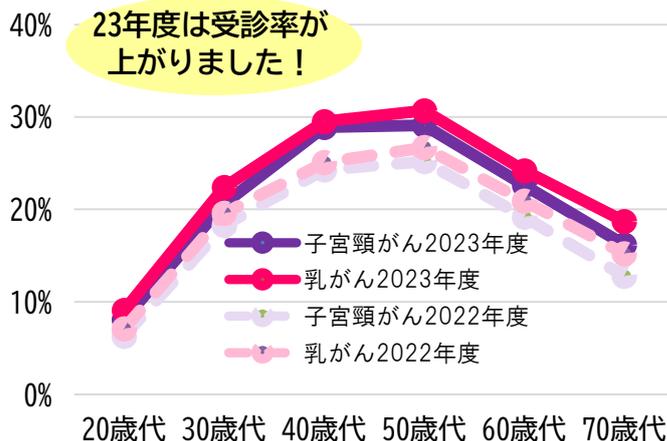
子宮体がんについて

子宮体がんは子宮頸がんとは原因も発症のメカニズムも異なります。子宮内膜に多く発生するがんです。内膜は月経によってはがれるので、閉経前に子宮体がんが発生するのはまれだと言われています。年齢別に発生率(罹患率)をみると、40 歳代後半から増加して、50 歳代から 60 歳代でピークを迎え、その後減少します。

症状が進行していない後期の段階でも不正出血を起こすことが多いので、少量でも出血があればすぐに婦人科を受診しましょう。



年代別の婦人がん検診受診率



神建連国保健診データより作成